

梅之木通信

【週末縄文人の会】

第39号 2023. 6. 5 発行

考古学講座も順調に中盤戦へ

4月から新たに始まった、佐野さんの考古学連続講座も毎回多数の出席者があり6月3日には7回目の講義に突入しました。最初は物珍しさもあってか？多数の人たちが参加するものの、徐々に参加人数が減っていくのではないかと心配していましたが、予想に反して大きく人数が減ることもなく、みなさん毎週土曜日になると集まってきます。佐野さんの講義も、最初の1、2回は某Sさんからダメ出しをされる箇所もありましたが、だんだんいつもの名調子になってくるにつれて、つつい眠気に誘われてしまいます。講座も後半になると縄文時代から弥生、古墳、平安時代へと移って行ってしまいますが、現代に至る時代の流れの中で縄文文化が果たした重要性を再認識できるかもしれません。



4月8日 第一回
椅子が足りないくらいの人です！



5月27日 第六回
微妙に間隔が開いたような・・・

❁ 3号棟 修繕作業

最初に取り組んだ3号棟も3年の年月が経ち、玄関部分の木材や屋根の杉皮が腐りかけ、また上部の土が流れて、防水シートがむき出しになってきてしまっていました。



3棟建設したノウハウを生かして、横木を新たに入れ直し、杉皮の重ね方を修正しました

うめのき縄文祭に恥ずかしくない程度には修繕できたかな？



☆ うめのき縄文祭（6月3日）

夜中までの大雨・土砂災害警報が心配されましたが黒田さん企画の『うめのき縄文祭』が初めて開催されました。お役所仕事で許可を取るのも一苦労だったようですが無事開催することができ、また一つ梅之木遺跡でのイベントが増えました。以下、G特派員からの報告です。

前夜の大雨が嘘のような晴天に恵まれ、6月3日（土）午後、うめのき縄文祭実行委員会主催（委員長兼委員は、熊造園代表黒田氏のみ？）の「うめのき縄文祭」が開催された。“週末縄文人会”は、会場係（駐車場案内兼受付）を担当した。祭りは、黒田さんの挨拶で始まり、「高根ふるさと太鼓」の演奏で一気に盛り上がった。大自然の中での太鼓演奏は格別な音色を醸し出し、その演奏に引き込まれた。1時間余りの太鼓演奏に続き、「原始感覚一座（旅一座）」の即興舞踊が始まった。男女が個性豊かな衣装と表現で、恍惚感を漂わせ、言葉で表現できない舞踊を展開した。午前の佐野さんの講義で『縄文時代は、ほかの時代と比較して争いもなく、平和な時代が長く続いた。』との説明があったこともあり、縄文時代の人間もこの様な踊りで平和に暮らしていたのかと思った。この舞踊の間、太鼓もこの踊りに合わせ即興演奏を行っていた。踊りの途中からは、見学者も踊りの仲間入りして一緒に楽しんだ。演奏・舞踊者を合わせ参加者は、約50人であった。（トイレの制約もあり上限50人）



- ❖ この『梅之木通信』は「週末縄文人の会」会員のかた限定にメールで配信していましたが、八ヶ岳ふるさと倶楽部のホームページ (<https://8furusato.hiho.jp/>) からも見られるようになりました。今までのバックナンバーもすべて見られますので、見逃した号があれば探してみてください。
- ❖ イベント資金確保のため「週末縄文人の会」も今年度から年会費をいただくことになりました。会費納入がまだの方は、会員皆さんの顔を見がてら年に一度は遊びに来ていただければと思います。